

イエスの墓に行った女性たち

ルカによる福音書 24 : 1 - 10



司祭 ヨハネ 井田 泉

復活日

2025 年 4 月 20 日

聖光教会にて

週の初めの日の明け方早く、女の人たちは準備しておいた香料を持ってイエスの墓に行きました。十字架に死んで葬られた、汚れたままのイエスのお体をせめてもきれいにしておかなければと思ったのでしょう。

ところが女の人たちが墓に行ってみると、入り口を塞いであった石はわきに転がされており、中に入ったところイエスのご遺体がありません。途方にくれていると、輝く衣を着た二人の人——天使でしょうか——が現れました。彼女たちが恐れて地に顔を伏せると、二人は言いました。

「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか。」

ルカによる福音書 24:5

イエスは生きておられる、と言うのです。

お墓に行ってイエスの復活を聞かされたこの女の人たちとは、どのような人たちだったのか。今日はルカ福音書が伝えるところを追ってみることにします。

イエスと同じガリラヤ出身の女の人たちが多数、イエスに従っていました。ルカ福音書第 8 章にはこのように書かれています。

「イエスは神の国を宣べ伝え、その福音を告げ知らせながら、町や村を巡って旅を続けられた。十二人も一緒だった。」 8:1
注目したいのはその後です。

「悪霊を追い出して病気をいやしていただいた何人かの婦人

たち、すなわち、七つの悪霊を追い出していただいたマグダラの女と呼ばれるマリア、ヘロデの家令クザの妻ヨハナ、それにスサンナ、そのほか多くの婦人たちも一緒であった。彼女たちは、自分の持ち物を出し合って、一行に奉仕していた。」

8:2-3

これが今朝、墓に行った人たちです。イエスに従った女の人たち。マグダラのマリア、ヨハナ、スサンナ、そのほか多く女の人たちがイエスに従っていたことがわかります。

それぞれに病や苦しみ、大きな困難を抱えつつイエスと出会った人たち、イエスの語る神の国の福音に強く引きつけられてイエスについて行こうと決意した人たちです。イエスとの出会いから、彼女たちの新しい人生が始まりました。

重要なことは、彼女たちがイエスの群れの中で積極的な役割を果たしていることです。

「彼女たちは、自分の持ち物を出し合って、一行に奉仕していた。」 8:2

ただイエスに救われて受け身のままだったのではなく、イエスの愛と教えに動かされて、自分の持っている物や力を提供し、喜んでイエスの一行に参加、奉仕していました。

この女の人たちは、イエスの最後のエルサレム入城に従いました。群衆はイエスを歓呼して迎えました。しかし受難の予告

を聞いていた彼女たちの心は安らかではなかったでしょう。いよいよイエスが重大な危険に、はっきり言えば死に近づいておられることを感じて、一心に祈っていたに違いありません。

数日して彼女たちの心配は現実となりました。イエスは捕らえられ、死刑場に連行されて行きました。金曜日の朝のことです。彼女たちは群衆の中にまじって、イエスの姿を見つめながら、ついて行きました。ルカ福音書は彼女たちのことをはっきりと伝えています。

「民衆と嘆き悲しむ婦人たちが大きな群れを成して、イエスに従った。イエスは婦人たちの方を振り向いて言われた。『…わたしのために泣くな。……』」ルカ 23:27-28

嘆き悲しむ女の人たちが大勢イエスに従いました。イエスは弱り果てながらも、彼女たちに気づき、振り向いて彼女たちを気遣って声をかけられました。

イエスは十字架にかけられ、午後 3 時頃、大声で叫ばれました。

「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。」23:46

このイエスの最期の声は、はっきりとこの女の人たちに届いたと想像します。この言葉を後々まで伝えたのは彼女たちだったかもしれません。さらにこう記されています。

「見物に集まっていた群衆も皆、これらの出来事を見て、胸

を打ちながら帰って行った。イエスを知っていたすべての人
たちと、ガリラヤから従って来た婦人たちとは遠くに立って、
これらのことを見ていた。」23:48-49

ここに立って、しっかりとイエスの最期を見つめて目に焼き
付けたのは、この女の人たちなのです。彼女たちは確信してい
ます。イエスは悪いことをしたから捕らえられて処刑されたの
ではない。神さまに従い、人々を、とりわけ弱い立場の人たち
を愛して正しいことをされたからこそ、捕らえられて処刑され
たのだと。「遠くに立って」とありますが、立入制限があつて距
離的には遠かったのかもしれませんが。しかし思いにおいては、
精神においては、彼女たちはイエスの間近にいた。イエスと心
と志を一つにしてしっかりと立っていたのです。

さてイエスが十字架に息を引き取られて、十字架から降ろさ
れ、葬られる場面です。

「イエスと一緒にガリラヤから来た婦人たちは、ヨセフの後
について行き、墓と、イエスの遺体が納められている有様と
を見届け、家に帰って、香料と香油を準備した。」23:55-56

この女の人たちは、イエスのご遺体を運ぶアリマタヤのヨセ
フの後について行き、墓とご遺体がそこに納められる様子まで
見届けました。ガリラヤからイエスに従い、十字架からお墓ま
でもイエスに従った。それほどにイエスを愛していたのです。

この女の人たちは、今朝早く、香料を用意してイエスの墓に
来ました。今日の箇所です。

輝く衣を着た二人の人が彼女らに言いました。

「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか。あの方は、
ここにはおられない。復活なさったのだ。まだガリラヤにお
られたころ、お話しになったことを思い出しなさい。人の子
は必ず、罪人の手に渡され、十字架につけられ、三日目に復
活することになっている、と言われたではないか。」24:5-7

「そこで婦人たちはイエスの言葉を思い出した。」24:8

彼女たちは生前のイエスの言葉を思い出しました。現実此起
こった痛ましいことは、イエスが先に予告しておられたことだ
った。「思い出した」。イエスの言葉が生きてよみがえって来ま
す。「三日目に復活する」

輝く衣を着た二人の人が彼女らに言います。

「あの方は復活なさったのだ」

驚愕です。けれども確かに、それはイエスが言っておられた
ことだった。天使をとおして、イエスが彼女らに呼びかけてお
られるのではないのでしょうか。

「なぜ、生きているわたしを死者の中に捜すのか」

彼女たちは、恐れつつ、惑いつつ、なぜかかすかにうれしい。
小さな、しかし確かな喜びが、心に体に湧いてきます。まだ復

活の主と出会っていません。けれども彼女たちのそばに、復活のイエスはもう来ておられる。間もなく、彼女たちは驚きと喜びの再会を果たすのです。イエスは生きておられる。ここまでイエスを信じて従ってきた彼女たちを、イエスが放置されるはずがない。彼女らを愛するがゆえに、イエスは死んだままにいるわけにはいかないのです。

彼女らはお墓で経験したことを、天使の言葉を使徒たちに伝えます。同時にわたしたちにもそれを伝えてくれています。

「あの方は復活なされたのだ」

あるいはわたしたちもまだ明確に復活のイエスさまと出会っていないかもしれません。しかしイエスはわたしたちに会おうとして近くに来ておられます。わたしたちも、ある時からイエスを信じて従おうとしてきた。苦しみも困難も迷いも抱えつつ、十字架の主を見つめようとしてきた。そのわたしたちを、復活のイエスは見捨てられるはずはありません。復活の主は、わたしたちがまだ気づかなくても、実はすでにわたしたち出会っていてくださり、わたしたちを支え生かしていてくださるのです。そのことにわたしたちの目が開かれますように。

お祈りします。

主なる神さま、主イエスが復活して、今、わたしたちのために生きておられることに、わたしたちの目を開かせてください。十字架に死んで復活された主イエスのみ名を賛美します。アーメン